



G OVERNOR'S MONTHLY LETTER

国際ロータリー第2830地区 2025-26 ガバナー月信

No.10

4
APRIL

国際ロータリー第2830地区米山記念英字委員会
2025-26年度修了証書授与式
2026年3月7日(土) 16:00 ホテル青森



2025-26年度修了証書授与式 3月7日(土)

contents

1. ガバナーメッセージ
3. 委員会活動
7. DTLS開催報告
9. IM開催報告
15. 3-Year Rolling Goals
17. 各クラブの動き
19. 会員動向
21. 会員数の増減と出席率
22. 地区行事予定
24. ロータリー活動写真募集
24. 編集後記

よいことのために
手を取りあおう



国際ロータリー第2830地区事務所
〒030-0812 青森市堤町1丁目1-23 ホテル青森内
TEL.017-732-2830/FAX.017-732-2831
E-MAIL rid2830@outlook.jp

ガバナーメッセージ

ガバナー 米谷 恵司

春の訪れとともに、新たな年度のスタートを迎えました。会員の皆様におかれましては、日頃より地域社会に根ざしたロータリー活動にご尽力いただいておりますことに、心より敬意と感謝を申し上げます。

私は青森市に在住しておりますが、今年の冬は記録的な豪雪に見舞われました。除雪や排雪に追われる日々の中で、地域の方々が自然と声を掛け合い、助け合う光景を幾度となく目にいたしました。その姿は、まさにロータリーの理念である「奉仕の精神」そのものであり、私たちの活動の原点を改めて実感させるものでありました。

さて今、私たちが最も力を注ぐべき課題の一つが「会員増強」であります。ロータリーの活動は“人”によって支えられ、“人”によって広がっていきます。どれほど素晴らしい理念や活動も、それを担う仲間がいなければ継続も発展もかないません。

会員増強は単なる人数の拡大ではなく、新たな価値観や活力をクラブにもたらす重要な機会です。地域で活躍されている方々、志を同じくする方々に、ぜひロータリーの魅力を伝えていただきたいと思います。そのためには、まず私たち自身がロータリーを語れる存在であること、そして活動を“見える化”し、開かれたクラブ運営を行うことが求められます。

厳しい冬を乗り越えた青森の地に、今、確かな春の息吹が感じられます。会員増強もまた、一朝一夕に成果が出るものではありませんが、地道な声掛けと行動の積み重ねが、やがて大きな実りへとつながります。

本年度も残りわずかとなりましたが、最後まで全員一丸となって歩みを進め、次年度へと力強くバトンをつないでまいりましょう。引き続き、皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

さて、今月は「環境(Environment Month)」月間であります。2022年RI 10月理事会に決定された重点分野のひとつです。天然資源の保全と環境を強化し、環境の持続可能性を高め、人と環境との調和を促す活動を支援します。

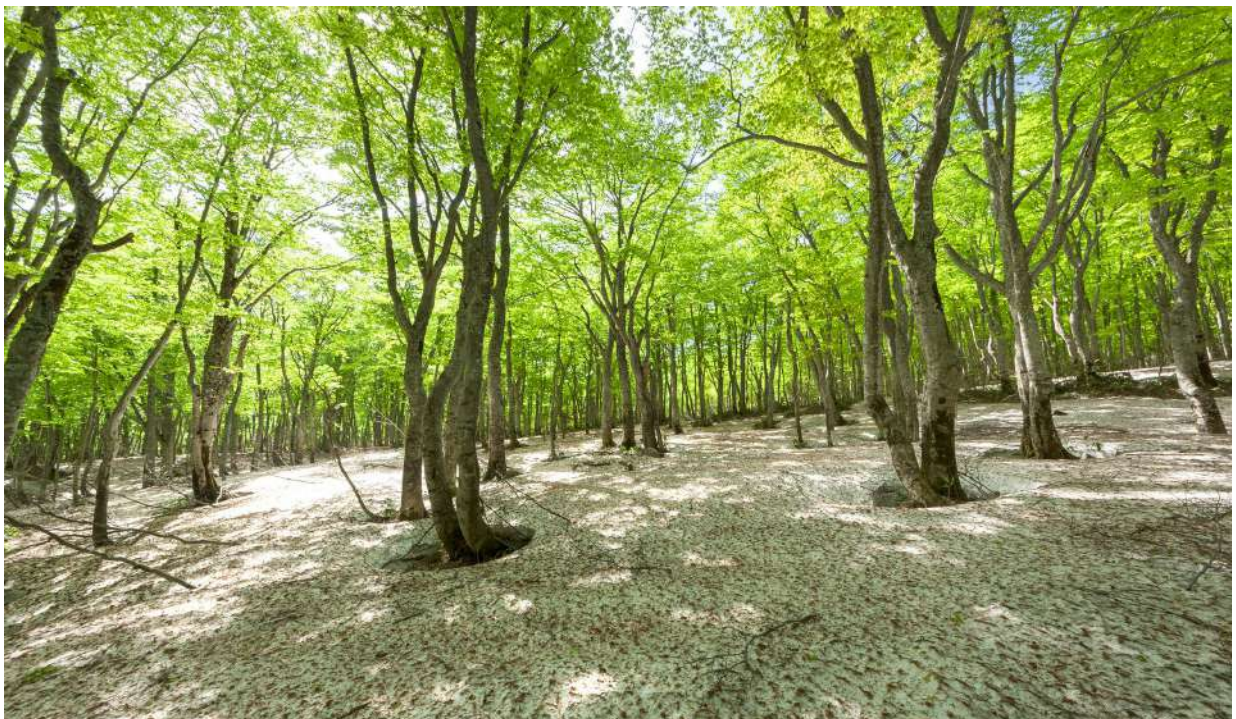
国際ロータリーでは、1年を通してそれぞれの月にテーマを定め、ロータリーの理念や活動への理解を深める機会としています。4月は「環境月間」です。近年、ロータリーは「環境」を新たな重点分野として掲げ、地球環境の保護と持続可能な社会の実現に向けた取り組みを世界各地で推進しています。

地球温暖化や気候変動、海洋プラスチックごみ、生態系の破壊など、私たちを取り巻く環境問題は年々深刻さを増しています。こうした課題は決して遠い世界の話ではなく、私たちの日常生活や地域社会にも密接に関わっています。だからこそ、地域に根ざしたロータリークラブが果たす役割は非常に大きいものがあります。

環境保全の取り組みは決して大規模なものである必要はありません。地域の清掃活動や植樹活動、環境教育の支援、資源の有効活用など、身近なところから始めることができます。小さな行動であっても、それが多くの人々の参加によって積み重なることで、大きな力となり、地域社会に確かな変化をもたらします。ロータリーが掲げる「超我の奉仕」の精神は、人と人との関係だけでなく、私たちが暮らす地球そのものを大切に作る心にも通じるものです。

また、日本の四季の豊かさや美しい自然は、私たちに多くの恵みと安らぎを与えてくれます。特に北国では、厳しい冬の雪もまた自然の営みの一部であり、春の訪れとともに生命の力強さを感じさせてくれます。こうした自然環境を未来の世代へと引き継いでいくことは、今を生きる私たちの大切な責任でもあります。

4月の環境月間を機に、各クラブにおいて地域の自然や環境に目を向け、できることから一歩を踏み出していきたいと思います。私たち一人ひとりの小さな行動がつながり、やがて大きな奉仕の輪となって広がることを期待しています。そしてロータリーの活動が、地域社会の環境意識を高め、持続可能な未来づくりに寄与することを願っております。



2025－26年度修了証書授与式

米山記念奨学委員会 会長 佐藤 一尚

(青森RC)

少しずつ温かさを感じる今日この頃の3月7日(土)にホテル青森において、2025－26年度修了証書授与式を実施しました。今回修了する米山奨学生は、張芸馨さん(青森北東RC、加古川穰カウンセラー)、マークボディ、ブンカニさん(十和田東RC、白濱道義カウンセラー)、サマー リャン ウェイ エンさん(青森RC、伊藤幸生・田中桂子カウンセラー)、張智彪さん(弘前アップルRC、成田学カウンセラー)、李昌燁さん(五所川原RC、川浪剛功カウンセラー)、蕭逸賢さん(青森RC、佐藤一尚カウンセラー)、宋双さん(弘前西RC、佐藤玲恵子カウンセラー)の7名となります。米谷ガバナーはじめとする地区役員の皆様、学友会会長の李永俊様、修了奨学生をお世話頂いたクラブ会長、カウンセラーの皆様、継続奨学生やカウンセラーにも同席頂き、和やかな雰囲気の中、修了奨学生の門出をお祝いしました。

委員長となって2回目の修了式となりますが、いつもながら涙腺が崩壊しそうになります。修了奨学生との思い出を振り返り、一人一人が述べる感謝の言葉を聞き、目頭が熱くなってしまいます。近い立場として、今日に至るまで日々成長する姿を目の当たりに出来ることがとても嬉しく感じます。「母国と日本との架け橋」となるべく学業やロータリー活動を頑張ってきたからこそその成長で、それが感謝を伝える言葉一つ一つに宿っており、ダイレクトに感じられるからだと思います。これも全てお世話頂いたクラブ、カウンセラーの皆様のおかげに他なりません。紙面上となりますが、改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

カウンセラー代表挨拶として十和田東RCの白濱さんからの言葉が印象に残っています。「お世話する側であったのに、何かしよう、してあげようとクラブが変わった」と言っておられました。こんな有難くも素晴らしい変化があったことが率直に嬉しかったですし、この思いを地区内でもっと共有出来るようにしないといけないなと感じました。

来月になると、新学年度となります。継続奨学生4名、新規奨学生7名の11名で新学年度をスタートします。4月はオリエンテーション、5月は卓話講習会、そして7月の成田俊介ガバナー年度からは卓話訪問で各クラブを回らせて貰います。米山事業を通じて、少しでもクラブの活性化に繋がられるよう、これからも頑張ってもらいます。引き続き、米山奨学生に対しまして、温かいご理解ご協力ご支援を賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

委員会活動

社会奉仕・職業奉仕委員 蒔苗 俊二

(弘前西RC)

令和8年3月26日、国際ロータリー第2830地区と青森大学との教育連携更新式に、社会奉仕・職業奉仕委員として出席いたしました。

「じょっぱり経済学」は、2016年より毎年、国際ロータリー第2830地区(青森県)に所属しているロータリークラブ会員が、毎回交代で講師となり、それぞれの専門分野や仕事に対する姿勢、地域における活動をテーマに、現場の視点から学生に伝えることを目的とした活動です。また、講義の様子は青森ケーブルテレビでも放送され、学内にとどまらず広く地域に発信される取り組みとなっています。

2026年度の講座実施に向けた合意が正式に締結され、社会奉仕・職業奉仕委員会としても、本連携事業を地区の職業奉仕活動の一環として位置づけ、引き続き関与・支援してまいります。

私自身、今年度は初めて講師を務めさせていただく予定です。学生を前に話す機会はなかなかないことであり、大変貴重な経験になると感じています。ロータリーと高等教育機関との連携は、若い世代に奉仕の心や地域への関心を育む機会として大きな意義を持ちます。地域で働く実践者の経験が直接学生に届くこの講座は、職業奉仕の理念を体現する場のひとつといえると思います。

委員として教育連携協定更新式の場に立ち会い、この連携の継続・発展を地区全体で支えていくことの重要性をあらためて認識いたしました。ロータリアンの皆様には、引き続き、本事業の推進にご協力をお願い申し上げます。



委員会活動

2025－26年度地区戦略計画委員会の活動状況について

地区戦略計画委員会副委員長 直前(副)ガバナー 花田 勝彦

(五所川原RC)

1.はじめに

当委員会は、今井高志委員長以下、ガバナー、パストガバナー、ガバナーエレクト、ガバナー補佐により構成される委員会であり、今年度はこれまで6回開催してきました。

中心的な議論は、2024年1月のRI理事会で、本地区を含む世界6つの地区に対して、2026年7月1日までに会員数1100名に達しなかった場合、隣接地区と合併することに同意するという決議がなされたことに対する対応策の検討ですが、本来の会員増強は、クラブの活性化であり、元気で魅力的なクラブづくりにあることも確認しています。

2. 委員会の開催実績

これまでに開催された委員会の概要は次のとおりです。

第1回:2025年7月28日 2025年7月1日時点の確定会員数が1,107名となり、目標の1,100名を上回ったことを確認しました。但し、6月30日時点での退会者数が予測よりも大幅に増えており、1,094名となったことから、2026年6月30日にはそのようなことがないように対策していく必要を確認しました。

第2回:2025年9月22日 9月時点の会員数が1,116名と順調に増加している状況を確認し、2540地区も11名増加していることが報告されました。年度内に脱会を予定しているクラブへの働き掛けを行う必要性も議論しました。また、標準クラブ細則の改定による家族会員やシニア会員等正会員の種別を拡大していくことを確認しました。最後に、同日に開催されたクラブサポートミーティングを実効的なものにするための方策も検討しました。

第3回:2025年11月24日 10月末時点で1,126名まで増加したこと、むつ八戸いちいロータリー衛星クラブが設立されたことが増加の要因であることが報告されました。今の時点では、1,100名問題を強調せず、クラブを元気にするための会員増強を発信していくべきことも確認しました。オンラインの衛星クラブを設立する動きも報告されました。最後に、1月31日までにRIへ提出する地区合併計画についても検討しました。

第4回:2026年1月18日 12月末に会員数が1,110名まで減少したことを受け、1月、2月で減少分を元に戻すための努力と、3月末に再度減少することが見込まれるため、4月、5月での増強を目指すべきことが確認されました。また、6月末の退会を抑制するための具体的な費用負担策、クラブに文書を発送すべきかどうかについても検討しました。世界のロータリークラブにおいて、1,100名を下回っている地区の状況についても報告がありました。

第5回:2026年2月21日(土) 次年度地区チームラーニングセミナーに先立って、初のハイブリッド方式で開催しました。6月末の大幅な退会を阻止するため、My Rotaryの入力方法と費用負担を含めた、各クラブへの周知文書を出すことにしました。実際に入力するのが事務局であるクラブも多いことから、事務局まで徹底するような必要も指摘されました。年度内の会員増強策として、衛星クラブの設立、家族会員等の入会促進、新会員セミナーの実施等を具体化していくことになりました。

第6回:2026年3月20日(金) 2月末時点の会員数が1,111名であったことを確認し、年度末の退会防止を徹底するために各クラブへ発送する文書を確定し、IMや地区行事での周知をするほか、衛星クラブの早期申請について確認しました。

2. 主な審議内容と決定事項

(1) 退会抑制のための緊急措置と費用負担 例年、6月末には30名規模の退会が発生し、会員数が1,100名を割り込むことがこの5年間続いていました。このうち、転勤のために6月30日に退会する会員がいて、後任者がクラブ内の手続を経て入会するのが7月中旬以降になるという状態が、7月1日時点での会員数を大幅に減らしており、これに対する対策を検討してきました。

前任者と後任者を切れ目なく会員として登録することが7月1日時点での会員数減少をなくすることから、前任者には、後任者が入会するまで登録は維持してもらえよう各クラブに要請しました。この延長によって発生する費用については、緊急措置として、地区が負担することを決定しました。

(2) My Rotaryの入力担当者(事務局)への周知徹底 前年度の反省から、会長・幹事だけでなく、実際にMy Rotaryの入力を担当するクラブ事務局員への周知が不可欠であるとの結論に達しました。そのため、具体的な入力手順をクラブ宛の文書に添付し、現年度・次年度ガバナー補佐がクラブ訪問をした際に、周知徹底を図っていくことにしました。

(3) 戦略的な会員増強策の展開 目先の会員数の維持だけでなく、クラブの若返りや会員の多様性を確保するための施策を検討しました。具体的には、会費を抑えたオンライン主体の衛星クラブの設立や、家族会員・シニア会員等の新たな正会員を拡充して、会費を安くしながらも正会員として登録できる方法を拡大する方向性を示しました。また、法人会員を導入したクラブの事例を他のクラブに拡大していくための発信をしていきます。

4. おわりに

2026年2月末時点の会員数は1,111名であり、目標達成に向けて依然として予断を許さない状況が続いています。しかし、6月30日の退会防止と地区での緊急的な費用負担、年度内の衛星クラブ設立を加速させること、グループ毎に可能な限り新会員セミナー等を開催して、年度内の新会員の入会に繋げることなど、様々な方法で2026年7月1日時点で1,100名を割り込むことがないようにまずは万全を期したいと思っています。

そこをクリアした上で、次年度には、本来この委員会が検討し、発信すべき地区の中長期的なビジョンや方向性を審議していきます。

地区チームラーニングセミナー (DTLS) 開催報告

DTLS実行委員長 佐藤 玲恵子
(弘前西RC)

2026年2月21日(土)、弘前市文化センターにて次年度へ向けての地区チームラーニングセミナーを74名の出席者の元、開催されました。

米谷ガバナーの挨拶に続き、今井高志次期地区ラーニングファシリテーターよりセミナーの趣旨説明がありました。

成田俊介ガバナーエレクトより26年1月11日から15日迄の間、フロリダ州オーランドの国際協議会に出席し、同期のガバナーエレクト達と共に多くの仲間達と学び、情報を交換、大きな収穫を得ての帰国との報告がありました。

オンラインカ・ハキーム・ババララRI会長のメッセージ講演が会場に流れ、次年度のメッセージは「持続可能なインパクトを生み出そう」というスローガンが発表されました。また、今井高志次期地区ラーニングファシリテーターにはRI現状報告を発表いただきました。山崎淳一パストガバナーは「ロータリー章典からDEI削除についての対応」の報告をなされました。

その他に成田ガバナーエレクトは、地区運営方針の発表、小林忠一郎次期財務長より委員会活動予算と、高野悟次期地区副幹事長より地区行事予定の発表がありました。

続いての9つの分科会でそれぞれ意見交換と交流を深める為と向上を目指した活発で前向きな報告が各委員から発表されました。次年度に向けての活動状況、次年度重点事項等について建設的かつ前向きな意見が多くありました。

結びに沼田廣パストガバナーから各委員会の講評と感想を述べられました。

引き続き場所を変えての懇親会では和気あいあいと親しく懇親し、実りのある充実した会であったと思います。アトラクションは弘前大学よさこい部の踊りがその場を盛り上げ、好評でした。

この会の運営に対してご協力頂きましたロータリアンの皆様方に深く感謝申し上げます。

令和8年3月10日



西第2グループインターシティ・ミーティング ならびに8クラブ合同例会を終えて

西第2グループガバナー補佐 **小林 大真**
(弘前RC)

2月28日(土)、午後4時から弘前市内のフォルトーナを会場に西第2グループインターシティ・ミーティング(IM)ならびに8クラブ合同例会を開催致しました。IMのテーマは「人、組織、地域の成長と持続可能な今後の弘前、津軽に向けて」です。当日は来賓を含めて167名の登録を頂きましたことに対して、あらためて感謝と御礼を申し上げます。

さて、プログラムの8クラブ合同例会では各クラブ会長または幹事等からクラブの近況報告を頂き、クラブ活性化に向けて相互理解を深めることが出来ました。



黒石RC 村上幹事(右)と交換留学生のダニエルさん

その後、「どす(D)?ええふりがねんで(E)、いっしょずに(I)！」と題したパネルディスカッションを開催し、地域の成長と持続可能な社会に向けた意見交換と地域の諸課題について共に考える機会となりました。

パネリストは小笠原豊和様、西澤雄貴様、三上菜月様、鈴木直子様との4人とコーディネーターは小林です。限られた時間内でDEIに触れつつ意見交換することの大変さ、奥の深さを開始直後に知ることとなりました。

・小笠原豊和(OGA) お笑い芸人、ハッピー百沢温泉支配人

県外出身のお笑い芸人でありながら温泉支配人を兼務し活躍。地域に向けた新たな温泉の魅力と地域振興にも高い関心をもっている。

・西澤雄貴 株式会社ブランデュー弘前 代表取締役社長

地域に根差したサッカーチームをけん引する社長として活躍。組織、チームづくりや広い交友関係が

らも地域振興、地域貢献に寄与されている。

・三上菜月 障害者支援施設千年園 理学療法士

弘前市まちづくり共創プロジェクトにて、映画館テアトル弘前の改装に携わり、カフェ&バーを立ち上げる。リハビリテーションの視点で街の活性化に寄与されている。

・鈴木直子 弘前RC会長、学校法人SKK 理事長

SKKグループ理事長として多岐に渡る事業を展開する。特に社会的マイノリティーと称される方や学生への細やかな対応とダイバーシティの視点で事業拡充を図っている。



パネリスト 小笠原様(左)、西澤様(中央)、三上様(右)

パネリスト4人にはそれぞれの活動を通したロータリーにおける5大奉仕のうち、「職業奉仕」を“場づくり”を得意とする小笠原様、「クラブ奉仕」を“組織づくり”に長けている西澤様、「社会奉仕」を“まちづくり”に携わる三上様、「青少年奉仕」を“ひとづくり”を業とする鈴木様から、それぞれの立場での普段から意識され実践されている活動への思いも伺う機会ともなりました。

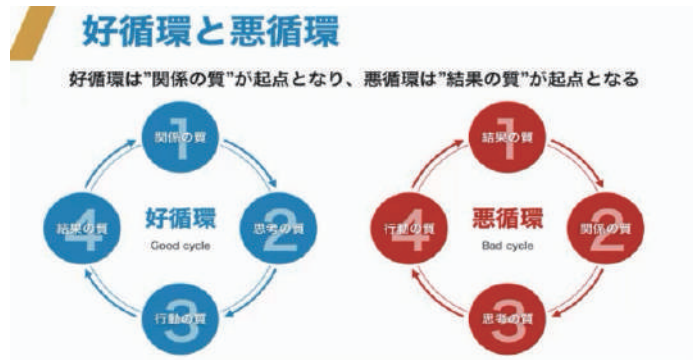
コーディネーターからは、①ロータリークラブの印象、②多様性を生かした活動事例や経験、③公平性のために心掛けていること、④包摂性のある地域となるために、またそのためにロータリーに期待すること、をそれぞれ伺いました。また、ロータリーに対する印象や期待することとしては、活動が見えてこない、活動において協働できれば、と言った声が聞かれました。正しい情報提供と協働に向けた機会創出が課題と感じられ、「入りて学び、出でて奉仕せよ」との言葉がロータリーにはあり、パネリストには本人と知人を含みロータリークラブへ入会し、一緒に活動出来ることへの期待も伝えておりました。

パネリスト4人の活動からは、直接的また間接的であってもその活動が関係者を巻き込み、多くのつながりからの気づきを頂きた活動につなげるといった「循環する思い(図1)」を強く感じる事が出来ました。何よりそういった活動が自身の存在意義にもつながる事であり、「好き」であるとの変わらぬ思い、熱意も合わせて感じられました。まさにマサチューセッツ工科大学 ダニエル・キム氏が唱える「組織の好循環と悪循環(図2)」に通ずるものと思われまます。同時に米谷ガバナーが仰る「ロータリーの不易流行」の本質の難しさもあらためて感じる機会となりました。

図1

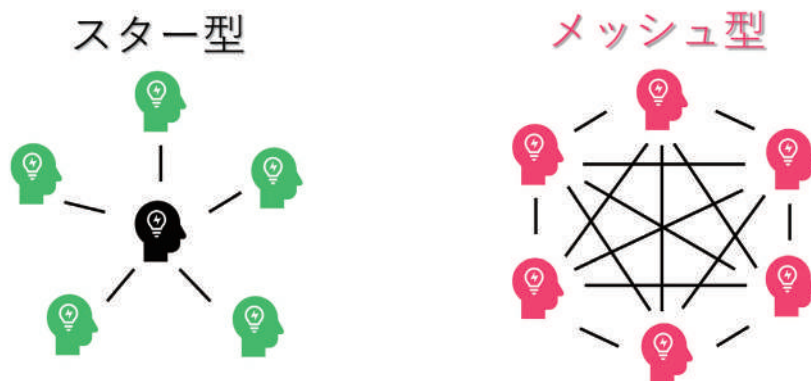


図2



先の見えづらい今日、問題解決型から価値創造型へと組織のあり様に変化しており、多くの関係者を巻き込みながらの価値共創が求められております。スター型からメッシュ型(図3)へと情報伝達も様変わりしています。同時に相互の関係性・結びつきも何によるかでその線の太さ・結びつきの強度も異なるものです。身近なスマートフォンの発売は1996年のノキア社に始まり、2007年に発売されたアップル社のアイフォンは私たちの生活を一変させました。20年前の事です。次の10年、20年は予測できませんがロータリー活動を通して、今出来る事を行いより良い未来に向けたいものです。西第2グループ内の会員数は12月末で121名。メッシュ型では7,260本の線がそれぞれを結びつけることとなります。他者からの気づき、協働することでの新たな価値創造がクラブ活性化、地域活性化につながるものと期待しています。多様な人々が尊重され、組織や社会の中で安心して能力を発揮できる状態、それがインクルージョンとされます。

図3



コーディネーターの力量不足でそれぞれの「気づき」は非常に小さいものだったと思われませんが、今回のIMが参加されたロータリアン一人ひとりの今後に向けて、また参加クラブの活動の活性化の一助となることを切に願い報告に代えさせていただきます。



短い準備期間にも関わらず全力でサポート下さった弘前ロータリークラブの皆様、特に実行委員長としてそのリーダーシップを発揮下さった三浦真介実行委員長に心からお礼申し上げます。IM終了後の懇親会は三浦実行委員長の発案にて座席はくじ引きとし、各テーブルでの新たな接点を見つけ、つなぎ、より強い信頼関係の築く(気づく)懇親会となりました。登録、参加くださいました皆様にあらためて感謝申し上げます。

ありがとうございました。



中グループ インターシティ・ミーティング報告書

中グループガバナー補佐 **森内 忠良**

(青森RC)

3月14日(土)に開催された中グループ インターシティ・ミーティング(IM)は、会員相互の親睦と研鑽を深めるとともに、ロータリーと地域社会との関わりを改めて見つめ直す、誠に意義深い機会となりました。とりわけ今回は、地域とのつながりをより大切にする観点から、会員のみならず市民の皆様にもご参加いただけるよう工夫を重ね、従来の枠を一步広げた、開かれたかたちでの開催となりました。地域に根ざし、地域とともに歩むロータリーのあり方を実践的に示す場となったことは、大きな成果であったと感じております。

当日は、「青森の文化を世界に発信」を主題として、青森県立美術館の設計者である青木淳氏によるご講演を拝聴いたしました。青森という土地に息づく歴史、風土、芸術文化の価値をいかに見つめ、それをいかに広く国内外へ発信していくかというお話は、私どもに深い示唆を与えるものでありました。日々その中に身を置く私たちは、ともすれば郷土の魅力を当然のものとして受け止めがちであります。しかしながら、青木氏のお話を通じ、青森には世界に誇り得る文化的資産が幾重にも存在していることを、改めて認識する機会となりました。

青森の文化を語るうえで、造形作家の手によって生み出されるねぶたの存在は欠かすことができません。ねぶたは単なる祭礼の山車にとどまるものではなく、高度な造形性と豊かな表現力、そして制作者の情熱と精神性が結実した、青森を象徴する文化の精華であります。その力強く華やかな姿は、多くの人々の心を打ち、地域の誇りとして脈々と受け継がれてまいりました。そこには、青森の風土と歴史、そして人々の暮らしの記憶が息づいており、地域文化の奥行きと可能性を雄弁に物語っております。こうした文化は、郷土の内に大切に守られるべきものであると同時に、世界へ向けて発信し得る豊かな魅力を備えております。

また、今回は市民の皆様にも広く門戸を開いたことにより、ロータリーの理念や活動をより身近なものとして感じていただく好機ともなりました。会員だけの学びにとどまらず、地域の方々と同じ場で思索を共有できたことは、ロータリーが地域社会において果たすべき役割を改めて自覚するうえでも、極めて有意義でありました。閉じた集まりではなく、地域に開かれた公共的な場として開催し得たことは、今後の活動の方向性を考えるうえでも大きな示唆を与えるものであったと存じます。

今回のIMは、会員相互の交流を深めるにとどまらず、市民の皆様とともに青森の文化と地域の未来につ

いて考える、実り多き機会となりました。このたび得られた学びと気づきを今後のクラブ活動に生かし、より一層地域に根ざし、より広く社会に開かれたロータリー活動を推進してまいりたいと存じます。

結びに、本会の開催にあたりご尽力くださいました関係各位に深甚なる敬意と感謝を表しますとともに、ご参加くださいました市民の皆様、そして格別に貴重なご講演を賜りました青木淳様に、心より御礼申し上げます。



3-Year Rolling Goals の実践

ガバナーノミネー 岡山 信弘

(六ヶ所RC)

3月21日に中谷研一RI理事エレクトが来青し、米谷恵司ガバナー、成田俊介ガバナーエレクトと私 岡山信弘がお迎えし、青森空港内の会議室でミーティングを実施しました。

最初に中谷RI理事エレクトから「今日は、私は3year rolling goalsでガバナー、エレクト、ノミネーがどのような形の2830地区の未来像を描いていらっしゃるのか、私がどのような形でサポートができるのか、お話を伺いたい、ということで訪問しました。」とお言葉を頂戴しミーティングが始まりました。

冒頭は中谷RI理事から米谷ガバナーへ2830地区の現状についての聞き取りが行われました。共有された内容は以下のとおりです。

- 地区の会員数減少により合併の可能性があり、会員増強が急務となっている。
- 人口減少や個人的事情による退会が主因で、若手会員の定着が課題。

続いて、成田ガバナーエレクトから中谷RI理事エレクトへ、ご自身が予定している会員増強の具体策であるオンライン専用の衛星クラブ設立について説明がありました。その衛星クラブの概要は以下のとおりです。

- 例会はオンラインのみ
- 年会費 48,000円
- 例会の頻度 3～4回／月
- 例会の時間 12:00～13:00
- 奉仕活動 一人でご近所の清掃や、他のロータリークラブの奉仕活動に積極的に合流。
- 会員の範囲 2830地区内外

ミーティングの中で、中谷RI理事エレクトがAKSになった意外な経緯や、RI理事内部の貴重なお話をお聞きする事が出来ました。中でも印象的だったのは次のことでした。

「ロータリー研究会でアレツォさんがこんな話をしていた。

ロータリークラブに入ったら遠くの方であかりがチラッと見えている。

あの明かりって何なんだろう。

会長になったらちょっと輝きが増した気がした。

ガバナーになったらちょっと大きくなった気がした。

地域リーダーになったら結構輝いてるような感じもした。

理事の17人に入ったら輝きも違うし、大きくなった。

RI会長になったらもっとすごいだろうなと思っていたら、会長になった途端に急に違っちゃった。急に逆さまに落っこったような気がした。

よく見たら、あの光は自分に対するスポットじゃなくて、ロータリークラブの一番の先端になる会員を照らすため光だった。

だから私はRI会長が終わったら、今度は下から彼らを一生懸命サポートして、ロータリーの会員さんが輝くようサポートし続けていきますよ…と。

私はもっともだと思った。我々が偉いわけでもなんでもない。

単にガバナーは1年の役割だし、地域コーディネーターは3年の役割だし、我々は2年間の役割を、どうやって責任を持って果たせるか、ということが一番大きなことだと思って。(中谷RI理事エレクト)

決して偉くなったとか、そういう問題とは違う。むしろそれだけ責任を大きく持つようになったってことをやっぱり我々は感じていかなきゃいけないのかな、というふうにちょっと思っているの、皆さんにまたそれについてもお考えをいただきたい]

中谷研一様

所属 足利東ロータリークラブ

経歴 2026-28年度 国際ロータリー理事

2024年 GELSチーム・リーダー

2023.2024年 国際協議会ラーニング・ファシリテーター

2020-23年 GELSチーム・メンバー

2019-222年度 第1地域E/MGA

2015-16年度 第250地区ガバナー

各クラブの動き

青森モーニングロータリークラブ 「青森市内8校と米国メイン州との第8回小学生 版画交流作品展」活動報告

青森モーニングRC 奉仕プロジェクト委員長 橋 正弘

青森モーニングロータリークラブでは、毎年継続実施している奉仕プロジェクト事業として3月14日(土)、15日(日)の2日間にわたり、協同組合タッケン美術展示館(青森駅東口ビル4階)において、「青森市内8校と米国メイン州との小学生版画交流作品展」を開催しました。

この版画展は、「版画の街青森」の推進と、「版画交流を通じて子供達の国際理解の芽を育み、広げること」を目的として、平成30年にプレ30周年記念事業として第1回を開催以降今回が8回目となりましたが、時期をずらして米国メイン州でも同じ作品の版画展が開催されるのが特徴となっています。

今回は青森市内8小学校(造道、浪打、堤、沖館、三内、戸山西、三内西、小柳)の116作品とメイン州13校の78作品、合わせて194作品に加え、米国メイン州との版画交流経緯を紹介したディスプレイを展示したほか、メイン州で開催された版画展のビデオも放映しました。

開催にあたっては青森市教員委員会に後援をいただき、青森市内小学校全校にチラシ・ポスターを配布し、チラシ裏面の塗り絵を塗って持参した子供にはもちろん景品があたる抽選会を実施するなどした結果、2日間の来場者数は親子連れを中心に400名となりました。広報あおもりや地元新聞社に取り上げていただいた効果もあり、認知度も年々上がっているものと思われます。



今回の版画展運営についても、チラシ・ポスターの袋詰め・各校配布、版画の額縁収納など事前準備作業から当クラブ会員が参画いただき、開催前日の設営作業からは青森版画文化研究会様のご支援に加え、青森中央学院大学の米山奨学生学生の皆さんにもお手伝いいただき、スムーズに運営できましたことに感謝しております。

次年度も引き続き第9回の版画展を開催する予定です。



会員動向

入会者



松野 健
(五所川原RC)
2月25日入会



橋 文哉
(五所川原RC)
2月25日入会



中根 荘八
(五所川原RC)
2月25日入会



船岡 康男
(青森RC)
2月5日入会



小野寺 洋
(八戸RC)
2月4日入会

退会者

クラブ名	氏名	退会日
青森	上杉 和史	2月4日
八戸南 (八戸南さくらエイトR衛星)	松田 依子	2月28日

ロータリー財団寄付



佐々木 ナナ子
(三沢東RC)
PHF



角田 浩志
(五所川原RC)
PHF+4



敦賀 鉄正
(五所川原RC)
PHF+3

米山記念奨学会寄付

<米山功労者>



Steven.G.Silverberg
(五所川原RC)
第1回



花田 勝彦
(五所川原RC)
第4回
マルチプル



山崎 淳一
(五所川原RC)
第17回
メジャードナー

2026年2月会員数の増減及び出席率表

グループ	クラブ名	例会数	出席率 %	正会員数								My Rotary 登録率 %	
				前月末 会員数	入会	退会	2月末 会員数	女性 会員数	期首 会員数	入会 累計	退会 累計		
東第一グループ	むつ (うち、むつ大畑) (うち、むつ八戸いちい)	3	87.00	60 (8) (9)	0 (0) (0)	0 (0) (0)	60 (8) (9)	5 (1) (1)	50 (8) (0)	11 (0) (9)	1 (0) (0)	26.67	
	野辺地	4	89.02	14	0	0	14	3	14	0	0		92.86
	七戸	3	92.50	14	0	0	14	2	13	3	2		14.29
	東北	3	68.75	16	0	0	16	2	16	0	0		87.50
	むつ中央	3	67.00	20	0	0	20	1	19	2	1		10.00
	六ヶ所	4	61.00	38	0	0	38	1	36	2	0		31.58
	小計				162	0	0	162	14	148	18		4
東第二グループ	三沢	3	56.67	21	0	0	21	1	21	0	0	42.86	
	十和田	3	50.00	30	0	0	30	7	33	3	6	30.00	
	十和田東	4	41.00	29	0	0	29	5	28	1	0	48.28	
	おいらせ			6	0	0	6	0	6	0	0	50.00	
	三沢東	3	64.60	36	0	0	36	4	36	1	1	30.56	
	十和田八甲	3	49.71	83	0	0	83	1	80	4	1	39.76	
	小計				205	0	0	205	18	204	9	8	
西第一グループ	五所川原	3	53.60	58	3	0	61	7	60	3	2	70.69	
	金木	4	82.00	10	0	0	10	1	12	0	2	20.00	
	鱒ヶ沢	2	37.60	16	0	0	16	2	16	0	0	43.75	
	鶴田	2	87.50	8	0	0	8	1	8	0	0	37.50	
	五所川原中央	3	40.00	22	0	0	22	1	24	0	2	54.55	
	つがる	2	61.00	33	0	0	33	0	34	0	1	33.33	
	五所川原イヴニング	2	37.00	24	0	0	24	7	25	0	1	58.33	
	小計				171	3	0	174	19	179	3	8	
西第二グループ	弘前	3	72.40	46	0	0	46	5	50	0	4	47.83	
	弘前東	1	62.50	8	0	0	8	5	9	0	1	37.50	
	板柳	2	85.00	10	0	0	10	2	8	2	0	20.00	
	黒石	3	52.00	23	0	0	23	3	23	0	0	47.83	
	大鰐	3	60.00	10	0	0	10	0	9	1	0	30.00	
	弘前西	2	89.29	30	0	0	30	4	29	2	1	56.67	
	平賀・尾上	2	27.70	9	0	0	9	0	9	0	0	33.33	
	弘前アップル	3	100.00	15	0	0	15	2	15	0	0	73.33	
	小計				151	0	0	151	21	152	5	6	
中グループ	青森	3	61.80	101	1	1	101	10	104	4	7	100.00	
	青森北東	2	72.20	20	0	0	20	3	20	1	1	65.00	
	青森中央	2	100.00	6	0	0	6	1	6	0	0	33.33	
	青森モーニング	2	58.30	19	0	0	19	3	20	2	3	63.16	
	小計				146	1	1	146	17	150	7	11	
南グループ	八戸	3	67.70	68	1	0	69	0	63	7	1	38.24	
	八戸東	4	100.00	51	0	0	51	1	46	5	0	54.90	
	三戸	3	90.00	7	0	0	7	1	7	0	0	85.71	
	五戸	3	89.00	12	0	0	12	1	12	1	1	58.33	
	南部	3	77.00	9	0	0	9	0	9	0	0	44.44	
	八戸北	2	56.90	39	0	0	39	7	38	1	0	53.85	
	八戸南 (うち、八戸南さくらエイト)	3	62.90	41 (10)	0 (0)	1 (1)	40 (9)	12 (9)	39 (9)	4 (2)	3 (2)	92.50	
	八戸中央	2	68.70	13	0	0	13	7	11	6	4	38.46	
	八戸西	3	56.30	37	0	0	37	23	34	3	0	43.24	
	小計				277	1	1	277	52	259	27	9	
合計 40RC				1,112	5	2	1,115	141	1,092	69	46	51.68	

※ () 内は衛星クラブの会員数です

期首会員数は2025年6月末会員数です

7月1日の会員数は1,107名です

2月末現在の入退会人数です

地区行事予定 2026年4月／環境月間

月日	曜日	内容	会場
1	(水)		
2	(木)		
3	(金)		
4	(土)	南グループIM	八戸グランドホテル
5	(日)		
6	(月)		
7	(火)		
8	(水)		
9	(木)		
10	(金)		
11	(土)	新米山奨学生・カウンセラーオリエンテーション（歓迎会含む） 第18回全国RYLA研究会 大分会議（4/10 プレコン） 青森北東RC創立60周年	ホテル青森 ホルトホール大分 ホテル青森
12	(日)		
13	(月)		
14	(火)		
15	(水)		
16	(木)		
17	(金)		
18	(土)		
19	(日)	地区クラブ活性化ワークショップ	リンクステーションホール青森ほか
20	(月)		
21	(火)		
22	(水)		
23	(木)		
24	(金)		
25	(土)	第38回全国ローターアクト大会（～26日）	オリンピックセンター
26	(日)	第2回ガバナーノミニー・ラーニングセミナー（GNLS#2）	パシフィコ横浜
27	(月)	クラブ活性化セミナー2026（～28日）	パシフィコ横浜
28	(火)	GNDセミナー、第3回ガバナー会議、 2025-26 G、GE、GN情報交流会	パシフィコ横浜
29	(水)	昭和の日	
30	(木)		

地区行事予定 2026年5月／青少年奉仕月間

月日	曜日	内容	会場
1	(金)		
2	(土)	西第1グループIM	金木中央公民館
3	(日)	憲法記念日	
4	(月)	みどりの日	
5	(火)	こどもの日	
6	(水)	振替休日	
7	(木)		
8	(金)		
9	(土)	クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー (CLLS) 第13回全国インターアクト研究会・福島会議 (～10日)	弘前文化センター／フォルトーナ コミュニティ福島／郡山ニューホテルアネックス
10	(日)		
11	(月)		
12	(火)		
13	(水)		
14	(木)		
15	(金)		
16	(土)	米山奨学生卓話講習会 第2回RLI (～17日)	ホテル青森 YSアリーナ八戸
17	(日)		
18	(月)		
19	(火)		
20	(水)		
21	(木)		
22	(金)		
23	(土)	三戸RC創立60周年	
24	(日)	東第1・第2グループ合同IM	亀の井ホテル青森まかど (野辺地町)
25	(月)		
26	(火)		
27	(水)		
28	(木)		
29	(金)		
30	(土)	第29回日本青少年交換研究会・福岡会議 (～31日)	電気ビル共創館&みらいホールほか
31	(日)		

みなさんのロータリー活動をガバナー月信の表紙に!写真募集!!

みなさんのロータリー活動をガバナー月信の表紙に載せてみませんか?
2024-25年度ガバナー月信同様に、各クラブでのロータリー活動を撮影した
写真で毎号の表紙を飾りたいと思います。
掲載希望の写真は、地区事務所に掲載希望月の前月15日までに写真データと
写真の内容を簡潔にまとめたものをメールでお送りください。

残すところ2回!!



編集後記

やっと桜の季節が目前の2830地区、ガバナー月信4月号は日本の新年度として米山奨学生の修了証書授与や「じょっぱり経済学」の講座実施締結がされました。
一方でロータリー新年度の7月に向けDTLSなどのスタート準備も着々と進んでいます。
そんな単年度制のロータリーの活動を、しっかり繋いでいくためにも3-Year Rolling Goalsの実践を各クラブでもさらに深めていけたらと思います。
そして、私たちの大切な2830地区7月1日会員数1100名以上への戦略計画委員会活動状況(P5~)は必読いただき新年度を迎えましょう!!
これからお花見の季節、皆さんのすぐそばに、声をかけて欲しい素敵な候補者がいるはずです。
今こそ、一緒に活動する会員候補者への「種を蒔きましょう」

ガバナー月信 編集後記担当 **石川 佳共子**
(青森ロータリークラブ)

